

東京大好き

わが街自慢

—八王子—

# 私たちの宝は、 元気な子供たちです

本格的な少子高齢化社会を迎え、地域の中で高齢者や子供たちをいかに守るか、改めて、地域力が問われている。そんな中、八王子市郊外から「模範的な地域力を発揮して大きな成果をあげている」との朗報が飛び込んできた。サテ、どんな地域力なのか、急ぎ八王子へと向かった。

この朗報を教えてくださいましたのは八王子防犯協会の杉山友一会長さんだ。杉山会長は広い管内（この春、管内の一部が南大沢署管内に編入されたとはいえ）を守るため、かねてより「都内随一の青パト（台数）による機動作戦」を展開するなど、常に市民と行政、警察が一体となった防犯活動を強力に推進中だ。

こうした杉山会長の呼びかけに地域社会もよく応え、最近は各種自治ボランティア組織（青少年対策委や小P連、中P連、防犯、防火災、交通安全、各町会など）の垣根を超えて「地区住民協議会」のもとに大同

団結することで、文字通り地域ぐるみの活動ができるようになった。その中でも特に模範的な地域活動を展開するのが八王子市北部の「加住地区住民協議会」。加住地区は十四町会、三千七百世帯余を数え、急激な都市化にもなお緑豊かな自然が多く残る町だ。

この豊かな自然の中で、「子供たちをしつかりと守り、育てよう」というのが住民みんなの願いであり、今や加住地区一番の自慢でもある。

そんな皆さんの活動拠点が滝山街



収穫体験も楽しい思い出



おっかなびっくりの乗馬体験

道沿いにある加住市民センターだ。杉山会長と一緒に訪ねると、次の代表の面々が日頃の活動成果を満面の笑顔に表わしながら迎えてくれた。

▽細井衛（加住地区住民協議会会長）、▽遠藤富久（同会長代行）▽大澤敬之（同事務局局長）▽高橋清一（宮下町会長）▽坂本万里子（加住小PTA副会長）ほか。

＝順不同・敬称略＝

**地域住民が先生となって  
子供と楽しい放課後教室**

まずは細井会長から



子供の健全育成に尽力する加住地区のみなさん

「今の世の中、子供たちを健全に育てないことには明日の日本はない」

との強い思いが述べられ、そのためにこそ、「地域のタテ割りボランティア組織を串刺しにして（笑）、一本化した」というのだ。

この結果、地域のあらゆる知恵と工夫、そして人材が子供の健全育成のために一点集中し、通学路等の防犯パトロールは毎日敢行するとともに、同センターを「第二の教室」として、地域の住民や近くの大学生が先生となって子供たちに社会教育をするといった具合。

「といて、難かしい勉強ではなく、紙ヒコキや水鉄砲といった昔の遊びを通じて子供たちの創意工夫を高めたり、簡単な茶道から社会人としての礼儀作法を教えるといったことです。もとより周囲には田畑も多いので、四季の農作物の生産体験もしていただきます」と、放課後子ども教室担当の遠藤さん。

しかも、昔の遊びを教えるのは高齢者が多いことから、放課後子ども教室は高齢者の皆さんにとっても楽しい交流の場、生きがいづくりの場となる。

なかでも地元加住小の子供たちに

人気がのが毎年夏休みに「サタデースクール」として実施する乗馬体験。乗馬クラブを経営する地元有志の協力で実現したもので、子供たちの乗馬体験感想文からも地域の皆さんに対する感謝の気持ちでいっぱい。

「子供たちから自然と感謝の気持ちが出るようになればもうしめたもの。悪い子には育ちませんよ。何より、子供のことで地域が一体になったことが嬉しい」と、高橋さん。

高橋さんはボランティア仲間と一緒に毎日のように登下校の子供たちを見守り、時に悪さをしようものなら、我が子ならぬ孫のように叱り飛ばすとのこと。

「これぞ顔の見える街づくりですよ。昔だったら近所のうるさいオジサンやオバサンがよその子を叱ることなど当たり前のこと。そうしたムとんとんとんからの古き良き昔にもどろろというのが私どもの合い言葉です（笑）」（高橋さん）。

もうすぐ新年。

「そろそろ正月のもちつき大会の準備に取りかかろう」

細井会長の大きな声があがった。